

木で見直す、無垢のある暮らし。

WOOD ONE

Toward a Creative
Architectural Scene.

vol.1



その
経年美化
と共に。



無垢のキッチンが育む、 スイージーのある暮らし。

木の良さを取り入れた住まいを望まれる方でも、無垢材のキッチンとなると使い勝手やお掃除のことなどを気にされるケースも多いのではないのでしょうか。そこで実際に無垢のキッチンを住まいに取り入れられた3つの家族取材し、その使い心地や、キッチンから広がる暮らしをご紹介します。



Lifestyle with su:iji
スージーのある暮らし

Case **01**

無垢の温かさを 感じながら、家族の時間 が育まれていく。

ダイニングとキッチンには木を使ってナチュラルな感じにしたいと望んでいたHさん。「床もキッチンも無垢にして本当に良かった」と話してくださいました。長く使っているうちに味が出てくるのも無垢の木を選ばれた理由のひとつ。床は、裸足で歩いていても温かみがあってとても気持ちがいいそうです。1階は、ご主人が経営されるお花屋さんで、キッチンは2階にあります。もともとご主人のお母様が住んでおられ、そのお母様が別の場所に住まれることになり、Hさんのご家族が入居することに。そこで暮らし方に合わせて、住居スペースと1階の店舗空間を含めてのリフォームをされました。約半年前から打合せが始まり、じっくり時間をかけた甲斐があって納得のいくプランにたどり着いたと振り返られました。その言葉どおりにダイニングキッチンは、ご夫婦のナチュラルなセンスが広がる素敵な場所になっています。お子様は小学校3年生の男の子と1年生の女の子、もうすぐ3歳になる女の子の3人。お子様が小さいこともあって、ダイニングで勉強したり遊んだりすることも多いので、キッチンからその様子が見える対面式に。奥さまも1階のお花屋さんで仕事をされ、フラワーアレンジの教室もされているため、すぐに片付けられない時もあり、急なお客様がこられても手元が見えないようにクローズな部分がつくられています。キッチンとダイニングを区切っている壁面は、4種類の木を組み合わせつつくられたオリジナルのもので、空間全体に心地よい変化をつくりながら、木々の温かみをダイニング側へ伝えています。

無垢のキッチンについてHさんは、キズやカビなどへの不安もあったそうですが、設計士の方の「大丈夫」という言葉の通り、とてもお掃除も楽で清潔に使えているそうです。無垢のパイン材の表面は、コーティングによって汚れが取りやすくシミなども付かず、それでいて温かい手触り。キャビネットも重たいものを入れているのを感じさせない優しい動きで、使っていて心地いいそうです。ワークトップは人造石のクォーツストーンで、熱い鍋をそのまま置いても跡がつかず、包丁の傷もつきにくく、調理のしやすさを実感されています。

ダイニングセットは無垢のテーブルとチェアで、通常のものよりも高さが5～6cm低くなっていて、キッチン側とダイニング側でコミュニケーションの取りやすい目線の位置が考えられています。また、座っていてもダイニングとリビングの間のような居心地で、食事の時以外でも家族が一緒にすごしやすいスペースになっています。ご主人も家族で過ごす時間をとても大切にされ、食事の時間になると1階の職場から2階に上がってこられ、子どもたちと毎日一緒に食事をされるそうです。また、学校が終わったらお子様のお友だちが毎日のようにここへ来て遊び、「たまり場のようにになっているんですよ」とHさん。暮らし方に合わせた無垢のキッチンからご家族のふれあいが深まり、たくさんの人とのつながりも生まれているようです。



調理スペースも 広々として、心地いい 癒やしの空間に。

アンティークや手づくりのものが大好きというWさん。理想は、アメリカのホームドラマに出てくるような、木のぬくもりを感じながら長時間過ごしても心地いいキッチン。ウッドワンのキッチンに決めた一番の理由は、無垢の木のあたたかさ。扉カラーはインテリアに合わせて、木目がよく見える明るい色を選ばれました。動線の良い型で、調理をしながら家族の様子がわかる対面式キッチンで、アイランドもあって調理スペースが広々しています。2人のお子様も、新しいキッチンでチャーハンづくりに挑戦したそうです。キッチンの扉は汚れが目立たず、水拭きですぐにきれいになるそうです。火力が強いビルトインオーブンは、お菓子やパンづくりに大活躍。「居心地がいいから、時間があつという間に過ぎるようになりました」と、新しいキッチンがお気に入りの空間になったそうです。



※上記写真には一部特注品が含まれます。

素朴にさわやかに、 居心地よく。 やさしい雰囲気 に包まれたキッチン。

窓辺に花を飾ったり、ティータイムのお菓子を焼いたり。やさしい雰囲気につつまれたメープルのキッチンには、毎日を楽しむ理由がたくさんあります。ゆるいアーチを描く白いレンジフードは、かわいらしいキッチンにピッタリ。白いワークトップもやさしい色合いの木目とよくマッチします。「木に囲まされると、やさしい気持ちになれる」という、暮らす人の声が聞こえてきそうです。なめらかな質感メープルの扉は、シンプルでフラットデザインにもやさしい風合いをもたらし、「かわいい」小物が好き」なナチュラルなご家族のライフスタイルにピッタリです。



無垢のキッチン Su:iji 【スイージー】

「木を育てている会社がつくる、キッチン」 無垢の樹種もニュージーパイン®※1、メープル、オークの3種類あり、インテリアのイメージや暮らしのテイストに合わせて選べます。

※1 ニュージーパイン®/ウッドワンがニュージーランドで計画的に植林、育林したラジアータパインの登録商標です。



素朴にさわやかに。
居心地のいい家。 *Maple*

キッチン扉:メープル(落し込み枠組フラットパネル扉) 床材:ニュージーパイン®

白いカウンターに、やさしい色合いのメープル材を使ったかわいらしいキッチンは、料理を楽しくしてくれる空間。やさしい木目と明るい雰囲気は、お昼を過ごしたころには家族みんなでお菓子を焼いて、ティータイムをはじめたくなるような、穏やかな時間を紡いでくれます。自然の色や白を基調としたカントリーな雰囲気と相性がよく、インテリアのイメージを損なわないところもポイント。さらに、水まわりのデザインにレトロさを取り入れたり、目につきがちなレンジフードは白を選んで空間になじませたりと、思い思いのかわいらしさにこだわるすることができます。小物や食器だけではなく、キッチンそのものが大好きな“お気に入り”になることで、お湯を沸かしたり花の水を替えたりといった何気ない一つひとつでさえ、なんだか楽しくなっていきそうです。



シンプルだけど温かい。
お気に入りの北欧風。 *Pine*

キッチン扉:ニュージーパイン(落し込み枠組フラットパネル扉) 床材:オーク

雪解けの日、雨の日、風が気持ちいい日...それぞれ違った過ごし方を考えて、休みの日には家族みんなで食卓を囲み、のんびりお菓子を焼いて、昔ながらのカップでティータイム。お手本にしたいのは、そんな北欧のライフスタイルです。家族のためにつくる ひと皿 にこだわる彼らが使うような、なめらかなパイン材で白を基調にまとめたキッチンは、扉に凹凸をなくしてフラットに仕上げるのがポイントです。時とともに温かみを増す表情は北欧らしさとモダンさを兼ね備えて、インテリアにぴったりの空間をつくりだしてくれます。白いカウンターや棚にはガラスの質感がよく映え、北欧ならではの美しいグラスや花器も自然と引き立ちます。どこか自由で、スローで、けれど芯のあるスタイルは、リズムのある暮らしの流れをつくってくれます。



洗練された寛ぎと
広がりを感じる空間。 *Oak*

キッチン扉:オーク(落し込み枠組フラットパネル扉) 床材:ブラックチェリー

すっきりシンプルに見えるけれど、計算された“遊び心”を取り入れた大人の優しさを感じる室内。そこに置くキッチンには、インテリアのクオリティに見合う、こだわりのあるものを選びたい。洗練された印象にこだわるなら、その落ち着いたニュアンスで「自分だけの寛ぎの時間」をより上質に演出してくれる、オークの無垢材がおすすめです。ダークトーンのインテリアやビンテージアイテム、どこかアバンギャルドなシャンデリアなどとあわせて、大人の空間にふさわしいキッチンへと仕上がります。好きな音楽をかけながら、ゆったりとソファで過ごす休日。1日の終わりに、グラスを傾けるひととき。心ゆくまで寛げるこだわりの空間は、日々に最高のアイディアを連れてきてくれそうです。

断熱リフォーム プラス **ECO Reform**

住まいの熱の出入りを軽減しませんか。 木のある暮らしに省エネ効果をプラスするリフォームをご紹介します。



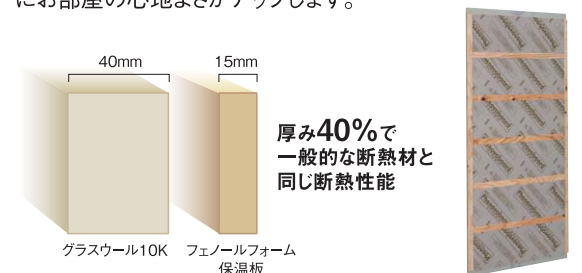
窓に+ 木製内窓 MOKUサッシ

壁を壊さず、既存のサッシ窓の内側に取り付けだけで施工できます。既存の窓と取り付けた内窓の間に空気層ができ、断熱性や遮音性を高めます。また、無垢の木は湿度に合わせて呼吸するので、室内湿度を快適にコントロールする効果もあります。結露が生じにくくなり、ダニやカビの発生も軽減します。



壁に+ 断熱改修パネル あったかべ

既存の壁に室内側から断熱パネルを貼るだけで、省エネ等級1ランク上に相当する効果が得られます。「あったかべ」の表面にしゅい等の調湿作用のあるものを施工すれば、さらにお部屋の心地よさがアップします。



床に+ 無垢フローリング ピノアース 6mm厚

床をはがさずに、上から貼るだけで無垢の床にできます。木の床には温かみがあります。冬場の寒い部屋に入った瞬間の「ヒヤッ」とした不快感がありません。





きちんとたべる

あさ目が覚めて、顔を洗って着替えたら、ごはんの支度から1日がはじまっていく。すこし早めに起きたから、ちょっぴり手の込んだ食卓だってお手のもの。メニューの主役は、ガスで炊くお米にしようか、それともパンか。そうだ、子どもたちお気に入りの自家製胡桃パンがいいかもしれない。つけあわせには昨日もらったつやつやの野菜を、贅沢に使った一品と決めている。さあ、なにから作ろうか。フライパンの中身をお皿にうつして、お鍋の火を弱めたあたりが家族を起こす頃合いになる。幸せそうに寝ている姿を見ると、なんだかこちらも、幸せな気持ちになれるから不思議だ。とはいえ、もう起きてほしい時間。カーテンをおもいきり開けて、布団から出ている肩をかく揺さぶる。「おはよう。もうすぐごはんができるよ。それと、今日は天気がいいよ」。

どんなにおいしくできたごはんも、ひとりで食べるとどこか味気ない。どんなに身体を気遣っても、野菜はココロの栄養にはならない。だれかが「おいしい」と言ってくることがうれしくて、だれかと囲む食卓がうれしくて、だからこそ料理は手を抜けない。手間も、素材も、愛情も、なにかを惜しんだらおいしいものはできない気がする。「ごはんの味は、その人となりを表す」というけれど、自分の味は、家族にとってどんな味として伝わっているんだろう。ごはんは家で食べたい、と思えるようなあたたかい味わいになれていたら、本当にうれしい。

お気に入りをつかう

使うものには、ちょっとしたこだわりをもっている。だから、掃除や洗濯は大切に、丁寧に。我が家のモノたちには、一つひとつに物語が溢れているから。

身のまわりのものは、それをずーっと使い続けられるか？という視点で選ぶこと。それをモノ選びのいちばん重要なポイントにしている。そうして選んだモノたちは、「まあ、いいか。捨てちゃおう」と思えるような使い捨てにはならない。だからといって、単に高価で質のいいものを選ぶというでもない。たとえば、家族それぞれに専用のタオルがあったり、誕生日にケーキを載せるお皿が決まっていたり、そういうふうに出や愛着がもてるもので暮らしをつくっていったら、なんて素敵だろう。そういった意味での「鑑定眼」に関しては、自分なりに磨いてきたつもりだ。

食器はカケていてもいい、という少し語弊があるけれど、カケやヒビを丁寧に補修した跡さえ、その器にしかないチャームポイントになっていく。壊れてしまった部分をあえてめだたせて、新しいデザインにしてしまう手もある。布や衣類もおなじ。ちょっと汚れても、ほつれても、工夫次第でどんなふうにも変身できる。お気に入りだからこそ、いつまでも手元にのこしておきたい。手をかえ品をかえ、ときにはカタチをかえて、どうしても使えなくなってしまうときまで次の使いみちを考えるのが、暮らしの愉しみになっている。

あそぶときも一緒

天気のいい日は、家族で外に出かけるのがいつものお決まり。今日はどこへ行こうか？散歩をしながらめざす近くの公園、自転車で向かうちょっと遠くの澄んだ小川・・・、歩いたことのない道を探して、ご近所を探検するのも楽しいかもしれない。たくさん歩くのが渴くから、ハーブティーはたっぷり用意しておく。道すがらにも食べられるように、クッキーを焼くのも忘れてはいけない。それに外で食べるごはんは何気ないものもとびきりおいしく感じさせてくれるから、それがいまから待ち遠しくなってしまう。道すがら見つけた小径を歩いて、出会った猫の行く先についていき、昔ながらの駄菓子屋さんに寄り道しながら、たどりついたのは広い公園。ずうっと続く芝生は気持ちがよくて、思い思いの遊びにすっかり夢中になっていく。ひと休みで腰を下ろしたときには、ふと思いついてシロツメクサの冠を編んでみた。他の花や葉っぱを編み込みながら、ときどきアレンジも加えて仕上げていく。子どもの頃毎日のように作っていた花冠は、昔よりずっと上手に編めるようになっていた。

少し離れた原っぱで遊んでいる家族を眺めながら、木陰にシートを広げておべんとうを並べる。「そろそろお昼にしようよ!」。声に気付いて大きく手を振り返す姿を見て、ふいに、じんわりと広がる幸せを感じた。こんなふういつもの暮らしに我が家ならではのエッセンスを加えて家族一緒に過ごす毎日が、なによりもいとおいしい。